

【R3年頭訓示】

H3-1-15
矢野弘典

原点に戻ろう

明けましておめでとうございます。本年も宜しく申し上げます。皆で力を合わせて、良い1年にしましょう。

皆さんはご家族と共に英気を養われたことでしょう。お陰様で私も休養をとり、今年への思いを新たにしました。

昨年はコロナの中で暮れた1年でした。今年もすでに11都府県で緊急事態宣言が発せられ、静岡県でも感染者が急増しています。有効なワクチンや治療薬が開発されるまでは、事態の急な改善を期待することはできないだろうと思います。

しかしながら、皆さんは最悪の状態がいつまでも続くとお考えでしょうか。私は断じてそのようなことはないし、ありえないと考えています。どんなに悪いことでも、また反対にどんなに良いことでも、それがピークに達した時に変化を始めるものです。

東洋には、歴史の風雪に鍛え抜かれた名言が伝わっています。皆さんもお聞きになったことがあると思いますが、こんな言葉です。

☆ 窮まれば変ず。変ずれば通ず。通ずれば久し。

古代中国の、『易経』にある一節です。どんなことでも極限に達した時に、変化が現れ、新しい状況が生まれ、それがしばらく続く。環境は変化してやまないのですが、そこには変わることはない法則がある。だから、悪い状態が続いても悲観せずに希望を持って次に備え、絶好調でも驕り高ぶらずに謙虚であれというのです。その変わり目を転機と言い、転機には必ず兆しが現れてきます。最初は小さく、段々大きく。その兆しをできるだけ小さな芽の内に捉えること、

それが事の成否を握る鍵ですが、現場主義に徹すれば必ず見えてきます。現場主義に徹しなければ何も見えません。そして良い芽は育て、悪い芽は摘むのです。悪い芽も早めに摘めば大事には至りません。世の中の大きな不祥事件の大方は、悪い芽を小さな内に見過ごした結果だと私は見えています。家庭でも、職場でも、経済社会でも皆同じではないでしょうか。

では、現在の経営環境のなかで、私たちはどのような姿勢で臨むべきでしょうか。それは『原点に戻る』ことです。

当センターや三公社にとって、経営の原点、プリンシプルとは何でしょうか。これまでに何度もお話ししてきたことなので説明は省略しますが、次の三点です。

- 1, 「お客様とともに歩む」経営理念の徹底
- 2, 健全経営（損益・資産・信用の健全性）の推進
- 3, センターの一体化

まずは、この1年間を振り返って見ましょう。十大ニュースです。

《十大ニュース》

- 1、 新しい未来への挑戦
 - ・ 中期計画の策定
 - ・ 公有地取得事業における安定的な事業量確保
 - ・ ETCの導入
 - ・ 市町営住宅管理事業の拡大
- 2、 執行体制の整備
 - ・ 正規職員、嘱託員の採用継続
 - ・ 住宅公社で富士出張所開設
- 3、 健全経営の推進
 - ・ 公共工事発注者支援機関として継続認定
 - ・ 土地公社は2年連続の黒字計上

- ・ 住宅公社は17期連続して黒字計上。
- 4、計画的な事業推進
- ・ 沼津市内浦重須地区住宅の高台移転の順調な進行
 - ・ 地籍調査で、県の10年計画に基づき整備促進を支援
 - ・ 伊豆S Lの新グランドデザイン集中整備事業の終了
 - ・ 江間交差点立体化事業の完成
- 5、顧客サービスの拡大
- ・ 外国人に対しビデオ通話によるリモート入居説明等の導入
 - ・ 「お元気ですかコール」の実施、非接触型体温計の贈呈
- 6、リスク発生への対応
- ・ 料金徴収不祥事を機に、ETC導入や監督体制の見直し
- 7、新型コロナウイルス感染症対策等
- ・ お客さまへの感染防止対策の実施
 - ・ 住宅を失った方々への県営住宅等の提供
- 8、戦略的な広報展開
- ・ ネットストラップなどセンターの一体化施策
 - ・ KADODE OOIGAWA の用地取得による多様な受注可能性をPR
 - ・ 伊豆S L割引、伊豆箱根スタンプラリーの実施
- 9、業務効率化・事務改善
- ・ ICT推進のため「ふじのくに i-Construction 推進支援協議会」加入
 - ・ 破損擬木の再活用による駐車場防護柵の設置
 - ・ ファイルサーバのバックアップ環境構築
- 10、総務関係等
- ・ 書面形式による理事会、評議員会の実施
 - ・ 在宅勤務、時差勤務の実施
 - ・ 職員の感染防止対策の徹底

コロナの影響にもかかわらず、事業計画が着実に実行されてきたことは、皆様のご尽力の賜物であり、心から感謝申し上げます。

昨年を振りかえって私が特に感銘を受けたのは、一人一挑戦や業務

功績表彰等を決める際に、各部門から上がってきた案件でした。現場に密着して問題点を発見し、改善に結びつけたものばかりです。先ほど述べた兆しを察して、事故を未然に防いだケースもあります。お客様の便宜を考えて、古いやり方を変えた例もありました。表彰案件とは別ですが、料金徴収員の不祥事について、私がどう考えたかをご参考までに申し上げます。報告を聞いた時に私は、曖昧さを残して処理すれば信用失墜を招き、道路公社の将来を危うくすると判断し、徹底調査と問題者の処分、業者との契約解除、そして事態の公表などを断行しました。その結果多くの方々のご協力を得て、ETCの導入にまで踏み切ることができたのです。後は実行あるのみです。

これらの例は、現場に立って考え行動する「現場主義」の結果です。現場主義に徹すれば、問題の解決能力である「現場力」が向上します。それによって初めて仕事の質が高まり、お客様から喜んで頂けるようになるのです。皆さん、現場主義を貫いてアンテナを高くし、小さな変化にも眼を配って、日々の業務に対処して下さい。

本年は、変わらないプリンシプルの上に立ち、環境の変化には柔軟に対応しながら事業計画を実行していく、そんな年にしたいと私は考えています。長い将来のことを見極めるのは容易ではありませんが、成りゆきに任せるのでは将来はありません。これからどうするかは、可能性もリスクも含め皆さん自身が決めるのです。その気概があれば、必ずや未来は拓けていくものと私は確信しています。

締めくくりはいつも同じで恐縮ですが、ご家族共々、身心の健康に留意して下さい。そして、悔いのない一年といたしましょう。

明るく、元気で、仲よく、厳しく！

以上